

令和7年度第1回周南市地産地消推進協議会 議事録

【日時】令和7年12月15日（月）10時00分～11時30分

【場所】周南市シビック交流センター 交流室1

- ・出席者 15名（うち代理2名）
- ・事務局 4名
- ・傍聴者 0名

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 周逸のPR・認定について

- 会長 それではまず、周逸のPR・認定について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 説明（資料1）
- 会長 説明のありました内容について、ご意見、ご質問はございますか。
- 委員 まずは周逸というものを知ってもらって、理解してもらわないと、良い販売などにも繋がらないと思いますが、インスタグラムはどのくらい閲覧されているのでしょうか。
- 事務局 インスタグラムなどSNSによる周知はまだ行っておらず、これから検討していくと考えています。ブランドリニューアルの際に、チラシやポスターなどでは周知を図っております。
- 委員 周逸のロゴのレイアウトなど非常に良いと思いますが、それを見たときに、周逸とは何かを知らない方もまだ多くいると思うので、消費者にとって馴染みあるものにしていくためにも、周逸の周知をしっかりしていく必要があると思います。
- 事務局 2月に開催する「周逸グランプリ」を通じて、これまで以上に多くの人の目に触れる機会を作り、さらに周知をしていければと考えています。委員の皆さんにも、お配りしているのぼり旗等の積極的な掲示など、ご協力をいただきたいと思っております。
- 委員 道の駅ソーラーネ周南に周逸の特設ブースはいつから設置されたのでしょうか。
- 事務局 10月下旬です。
- 委員 お客様の反応はいかがでしょうか。
- 委員 レジの横で目に付く場所ですので、お客様には周知できているという印象です。
- 委員 リニューアル前のしゅうなんブランドのシールは、大きいサイズと小さいサイズがありました。今回の周逸シールは、1サイズのみでしょうか。また、有償でしょうか、無償でしょうか。
- 事務局 1サイズのみです。令和5年10月までは有償でしたが、現在は無償です。
- 委員 欲しい枚数を伝えたらシールはいただけるのでしょうか。
- 事務局 その都度ご希望の枚数のお渡しが可能です。

- 会長 シールをどのようにして使われているのでしょうか。
- 委員 周逸認定品で、ふぐ、たこ、はもがありますが、スーパーや魚屋で、お刺身などで売られたりする際に、周逸シールの貼付をお願いしています。
- 会長 他の委員の皆さんも、ぜひシールなどもご活用いただき、周逸の周知にご協力いただければと思います。
- 委員 インスタグラムというのは、周逸だけのアカウントを作成するのでしょうか。
- 事務局 周逸のみとするか、地産地消推進店やイベント等の情報も含む形にするか、現在検討中です。
- 委員 道の駅ソーラーネ周南でもシェアできるものがあれば、ぜひさせていただきたいと思っています。これまでに掲載している記事は、市のアカウントから、周逸のハッシュタグなどで探せばよいのでしょうか。
- 事務局 市の公式アカウントにて、鹿野ファーム創業祭などのイベントについて、ハッシュタグで「周逸」をつけて投稿しておりますので、皆さんもぜひシェア等していただけますと幸いです。
- 会長 周知の部分がうまくいかなければ、せっかくブランドリニューアルをして「周逸」と名付けても意味がなくなってしまいますので、ぜひ今後も積極的に周知を進めなければと思います。

4. 「周逸グランプリ 2025」二次審査について

- 会長 次に、「周逸グランプリ 2025」二次審査について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 事務局説明（資料2～5）
- 会長 説明のありました内容について、資料2の表にある4商品は、事務局ですでに一次審査を終えているということで、本協議会での承認などは必要ないという認識でよろしいでしょうか。
- 事務局 そのとおりです。
- 会長 では、ご意見やご質問がありましたら、挙手をお願いします。
- 委員 個包装であることが応募要件にあったかと思いますが、そこはどのように判断したのでしょうか。
- 事務局 応募要件にある“個包装”については、本来、箱の中に商品1つ1つが包装された状態で複数個入っており、そのまま1つずつ分配できるものを想定しておりましたが、包装の仕方まで明記していたわけではないため、どの商品も個包装であると判断いたしました。今後、箱詰めするなど、どのように販売していく予定なのかを、プレゼンテーションで説明していただく予定です。
- 会長 事務局が判断したということで進めてよろしいでしょうか。
- 事務局 判断ということで問題ございません。
- 委員 二次審査では主に試食により審査されるかと思いますが、今回のテーマがお土産ということもあり、包装されている箱や袋などのパッケージについても加味して審査したほうが良いのではないかと思いますが、いかがでしょうか。
- 事務局 二次審査では、周南市らしさ、味、デザイン、価格を踏まえて、「周南市のお土産

として渡したい／もらいたいもの」を総合的に判断いただきますが、その中に、「お土産として適切なパッケージであるか」といった点についても含んでおります。審査の観点については、当日改めてご説明する予定です。

■会長

一次審査の段階では、応募要件に適合しているかどうか、という基準で審査しているということですか。

●事務局

一次審査の審査基準としては、資料5にあるとおりで、応募要件をすべて満たしていることに加え、信頼性、安全性、市場性、将来性を基準に判断いたしました。

□委員

二次審査の審査員として、様々な企業や団体がありますが、どのように選定したのでしょうか。

●事務局

今回のテーマがお土産となっており、資料4の「2. 募集する商品のジャンル」にあるとおり、出張時の訪問先などで配れるもの、周南市に旅行や出張で来られた方が職場で配れるものをイメージしております。そこで、出張の機会が多い地元企業の方や、広く商品を知って、使用してもらいたいことから、商工会議所等にも協力いただくなど、できるだけ関係者を増やしていきたいと考えております。

□委員

審査には一般市民の方に参加いただくのでしょうか。また、審査員の男女比はどのようになっていますか。

●事務局

一般市民の方々に自由に投票いただく形式にはしておらず、こちらから依頼した審査員のみで審査いただく予定です。男女比については、現時点ではおよそ半々となっております。

■会長

全国的に、こういった審査については、審査員の男女比率をなるべく近い値にするものであるかと思いますので、可能な限りその点も考慮いただければと思います。本協議会の委員も審査員ということでおろしかったでしょうか。

●事務局

委員の皆さんも審査員となります。二次審査では、事業者によるプレゼンテーションの後に質疑応答の時間を設けますので、今回ご意見いただいたようなご質問をいただきたいと思っております。

□委員

二次審査では、資料5の審査基準を審査員に配る予定でしょうか。

●事務局

資料5にある表は一次審査の基準であり、二次審査については、周南市らしさ、味、デザイン、価格を踏まえて、「周南市のお土産として渡したい／もらいたいもの」という審査基準で投票いただきます。

□委員

それぞれの項目ごとに審査するようなイメージでしょうか。

●事務局

項目ごとに点数をつけていただくのではなく、審査基準を踏まえて、いずれか1商品を選んでいただき、その商品名と選んだ理由を投票用紙に書いていただく方法を想定しています。

□委員

大きなイベントとして「周逸グランプリ」を開催するので、できればそれぞれの応募事業者に対して結果のフィードバックができれば良いのではないかと思いました。

類似イベントに出場した際も、商品に対するご意見をしっかりと返していただけたことで、商品開発の検討材料として非常に役立ったため、そのあたりも考えていただきたいと感じました。

●事務局

現在、投票用紙とは別に、審査員の方々に商品ごとのコメントをいただくことを考えており、そのコメントについては、後日各事業者へフィードバックする予定です。

今回、グランプリに選ばれるのは1商品ですが、ご応募いただいた他の商品についても、周南市のお土産としてより良いものになるよう、今後に繋げていければと考えております。

□委 員

すでに一次審査を通過しているため問題ないとは思うのですが、生産能力の部分において、周南市のお土産として販売していくにあたり、この規模で問題ないのでしょうか。

●事務局

現在出していただいている年間生産量は、最低限生産可能な量であり、今後、増産の意思があることを確認しております。

■会 長

二次審査の審査基準として含める必要はないのでしょうか。

□委 員

二次審査の際に、最大でこのくらい生産できるという目安があれば有難いです。

●事務局

事業者としても、売れたら増産するといった感覚であるとは思います。今回いただいたご意見を踏まえて、どういった形で審査をすべきか、質疑応答の際に質問いただくなど、検討させていただきます。

□委 員

生産能力については、本協議会委員以外の審査員は知らない情報であるため、それを二次審査に含めてしまうと、審査員によって審査基準に差が出てしまう恐れがあると思います。そのため、二次審査については、実際に食べて美味しい、お土産として渡したいのはどれか、といった観点のみで審査すべきだと考えます。

□委 員

周南市のお菓子業界は個人経営が多く、大量生産が可能な事業者は少ないのが地場産業の現状です。しかし、市内の事業者の中で、今後、周南市のお土産を作っていくという意識が向上していけば、周逸グランプリを開催する意味があるのではないかと感じます。今年は第1回目であるため、少しずつ、競い合うような商品が出てくることを期待したいと思います。

■会 長

生産能力の部分は重要なご指摘かと思いますが、二次審査の審査基準には含めなくてよいのではという意見をいただきました。いかがでしょうか。

●事務局

二次審査では、周南市らしさ、味、デザイン、価格をトータルで見て審査いただきたいと考えていますが、事業者に増産の意思がなければ、今後PRをする意味がなくなってしまうため、事業者に確認を行ったという状況です。二次審査の基準について、審査員60人全員の中で確実な物差しが提示できれば良いのですが、個人の好み等もあり難しいため、いただいたご意見を踏まえて、二次審査の方法を検討し、当日は説明資料もご準備し、審査員全員にご説明をさせていただく予定です。

■会 長

今回出た様々な意見を加味し、二次審査に向けて準備を進めていただければと思います。

5. 「周逸グランプリ 2026」の開催について

■会 長

「周逸グランプリ 2026」の開催について、事務局から説明をお願いします。

●事務局

事務局説明（資料6）

■会 長

説明のありました内容について、委員の皆さまより、お1人ずつ、ご意見をいただきたいと思います。

まず私から、提案を受けての印象ですが、「贈答品（菓子類）」と「お土産（菓子類）」で、商品として区別がつけられるのか、使い方の違いのみで、商品として差別

化できないのではないかと感じました。

□委 員 会長と同じく、贈答品とお土産の線引きができるのかと感じました。目的に企業の出張者が取引先やお客様にお渡しするとありますが、今年度のテーマでも同様となっており、どのように線引きをするのでしょうか。

□委 員 菓子類は1つで良いのではないかと思いました。「ごはんのおとも」というキーワードはとても良いと思います。応募商品は既存のものでも良いということで、この機会に改めて知ってもらえるという意味でも非常に良いと思います。

□委 員 「ごはんのおとも」が良いと思いました。周南市産の米の消費量を増やしたいというのも、目的が高くて良いと感じます。ただ、ごはんのおともは非常に幅広い分野であり、グランプリ商品を1つに絞るのが難しいため、佃煮部門、ふりかけ部門などのように、部門分けをして、それぞれ賞を設けるのも良いのではないかと思いました。

□委 員 地産地消の本来の目標は、地元で作られたものを地元で消費し、地元の美味しいものを地域外へ持っていく、知ってもらい、消費を広げていくことですが、その目標が少しずつゆるやかになってしまっているのが現状です。そういった中で、今回の提案のうち、最も地元で食べやすい、消費してもらいやすいものは「ごはんのおとも」だと思います。ごはんのおともの中でいくつか分類を設けて、その分類の中で選ぶという形でも良いのではないかと思いました。

□委 員 PR をしていくことが重要だと感じます。グランプリを受賞した際の特典をきちんと設ける必要があり、例えば、道の駅や、サービスエリア、ボートレース徳山の大きなレースでの販売など、魅力的な特典があれば、事業者の出品意欲も向上するのではないかと感じました。

□委 員 お土産販売をする中で、企業などは、箱入りの比較的高価格のものを買われる傾向があり、1消費者の方や高齢者の方などは、里帰りの際などにご近所の方へのお土産用で購入されたいということで、比較的低価格のものを大量に買われる方が多い印象です。贈答品とお土産は同じ菓子類ではありますが、贈答用で単価が高いものと、一般の方が購入しやすいとものというカテゴリーで分けるのであれば、「贈答品（菓子類）」と「お土産（菓子類）」がそれあってもよいのではないかと思いました。

□委 員 「ごはんのおとも」が良いと思います。地元で作られていると思うとより親しみやすさが増しますし、今後、ごはんのおともセットなどのように、詰め合わせにして贈るなどもできたら良いと感じます。

□委 員 「贈答品（菓子類）」は、販売先として百貨店やギフトカタログが挙げられていますが、実際にグランプリになった商品を購入したくても、販売先が限定されていると一般の方は買いづらいのではないかと思います。

また、瓶に入っている商品は、重いため、お土産としては向かないことから応募者が少なくなってしまうのではないかといった懸念があります。瓶の商品も応募できるテーマがあれば良いと思いました。

日持ちのする菓子類は、贈答品やお土産で挙げられていますが、日持ちの悪いスイーツも女性は好きな人が多いため、そのような部門も今後あると良いと思います。

□委 員 自社としては「ごはんのおとも」が売りやすく良いと感じます。地産地消という視点でみても、日頃お買い物いただく地域の皆さんに使っていただくという意味では

「ごはんのおとも」が良いと思います。

しかし、「贈答品（菓子類）」および「お土産（菓子類）」についても、対外的に周逸ブランドをPRするためには欲しいテーマであると感じます。予算などの関係で可能であるのならば、二部制にするのも良いのではないかと考えます。

□委員 「ごはんのおとも」が良いと思います。また、贈答品とお土産を両方とも菓子類に限定したのは、なぜでしょうか。

□委員 「ごはんのおとも」の将来像として、周南市産の米の消費量を増やしたいとありますが、周南市産の米の消費意欲を高めるのは非常に難しいことであると感じます。現在は米不足であり、消費量だけでなく、生産量も増やしていくようになれば良いと感じました。

贈答品とお土産は、いずれも菓子類ということで、お土産については、駅などで販売することを考えると、常温の菓子類に限定すべきかと思いますが、贈答品については、ふるさと納税の返礼品としても視野に入れているということですので、冷凍のものも含めても良いのではないかと思いました。

□委員 1 消費者として、季節のお中元やお歳暮に困っています。ごはんのおとものように、日頃自分自身も食べているものをお土産として持っていくのも良いですし、贈答品として贈るのも良いと思いますが、贈答品もお土産も菓子類に限定するというはどうかと思いました。

また、周南という名前だけでなく、商品の説明書きやしおりなどで、商品がどのように作られて、どのような特色があるのかといったストーリー性まであると良いと思います。

□委員 自分自身が駅や売店を見ていても、周南市を象徴できるものがないと感じます。そういうものを育てたいというスタンスでグランプリを開催していただきたいと感じます。お土産や贈答品についても菓子類だけではないため、「菓子類」と「その他」というジャンル分けでも良いのではないかと思います。

□委員 今年度のテーマである「お土産（菓子類）」は、本協議会の意見を踏まえて制度を固めていき、これから二次審査に臨むといった状況であることから、このテーマについては、もう1年勉強した方が良いのではないかと感じます。

「ごはんのおとも」は、テーマとしては非常に良いと思いますが、今年度のテーマよりも難しい判断になる部分が出てくるのではないかと感じます。

先ほど意見もありましたが、2026は二部制で開催するということは事務局として可能なのでしょうか。可能であるなら二部制できれば良いと思いますが、どちらかと言えば、今年度と同じテーマにして、制度等をしっかりと固める1年にしたほうが良いかと思います。

●事務局 いくつかご質問のあった点について回答します。

贈答品とお土産の線引きについてですが、今年度、審査員の依頼のために各企業を訪問した際、今回想定している「お土産（菓子類）」は、出張で周南市を訪れた方が、ご自身の職場や家族に配るために購入するものとしては良いかもしれないが、所長などが出張の際に取引先やお客様に渡すものとしてはふさわしくないというご意見をいただきました。そこで、来年度は、価格帯も5,000円以上など、単価の高い“少し

良い贈り物”を想定しているという点で、用途としても今年度の「お土産（菓子類）」とは区別が付けられるのではないかと考えています。

また、菓子類に限定している点につきましても、こういった経緯から、今年度のテーマである「お土産」のワンランク上の「贈答品」を作りたいという思いがあったことから、菓子類に限定しておりました。

贈答品としては菓子類に限定する必要はないのかもしれません、テーマを広く設定することにより、審査の際に比較が難しくなる点なども考慮し、今回は菓子類とさせていただきました。

●事務局

「ごはんのおとも」というテーマは、どこまでが対象となるのか、その線引きも難しいと感じます。また、部門ごとで分けるのか、幅広く設定するのかについても、検討事項であると思っています。

贈答品でも、菓子類に限定するかなど、どのように細分化していくかが課題です。できる限り多くの良い商品を応募いただきたい思いから、テーマを広く設定したい思いもありますが、審査の観点や、使用するシチュエーションなどによって、ある程度は制限を設ける必要もあると感じます。その点をどのように設定していかなければ良いかについても、皆さんのご意見をいただければと思います。

□委 員

「周逸グランプリ」はこの先も続くものであり、1年で全てを決める必要はないと思いますので、毎年1つずつ決めていけば良いのではないかと感じます。

●事務局

「周逸グランプリ」の目的として、周南市産の農林水産物を使用して、周南市の良いものを多く作っていくことで、さらにより多くの事業者、生産者、消費者に関わってもらいたいという思いがあります。

「お土産（菓子類）」のテーマを固定してしまうことにより、そうした目的が果たせないのではないかという懸念があったことから、今回、「ごはんのおとも」を提案させていただきました。

□委 員

今年の応募数は、周南市としては想定より多かった、少なかったなど、感覚的にいかがでしょうか。

●事務局

もっと応募していただきたいという思いはあります。準備期間、周知期間が短かったこともあり、応募したいが間に合わないため今回は見送る、という事業者もいました。

□委 員

同じテーマを続けるかどうかについても、この取組自体を知つてもらうのにある程度の期間が必要なのではないかと感じました。テーマを毎年変えるよりは、数年間は同じテーマで開催するのも良いのではないかと思います。

□委 員

これまでに、類似イベントで審査員をしたこともありますが、そこでは何度同じ商品を提出しても良いことになっており、3年連続同じ商品が受賞したこともあります。毎回別の事業者が受賞しなければならることはなく、こういった方法にすることで、その分応募商品のレベルも上がっていくのではないかと思います。最終的には、それぞれの部門をまとめて総合的な1位を選ぶなど、部門ごとでも1位が決まり、ごはんのおとも全体としても1位が決まるといった方法になれば、事業者の中でも、張り合いや向上心が上がり、面白いものになっていくのではないかでしょうか。

□委 員

周逸グランプリを開催するにあたり、ある程度は応募商品数が必要になると思いま

す。今後、「ごはんのおとも」を部門ごとに募集した場合に、応募数が少なくなるリスクを背負うよりは、ある程度広めのテーマに設定しておくことも重要なのではないでしょうか。

- 会長 応募数については懸念事項であると思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。
□委員 スーパーマーケット・トレードショーなど、やはり賞を取ることに事業者は必死になります。周南市でも部門を設けて各部門で賞を設けることができたら素晴らしいとは思います、周南市に自慢できるものが多くあるということが一番良いと思います。「周逸グランプリ」に出たことで売上が上がったなどがあれば事業者も意欲が沸き、来年度以降はもう少し応募数も増えるのではないかと思います。

- 委員 「周逸グランプリ 2026」を成功させるためには、「周逸グランプリ 2025」に選ばれた事業者に“こんな良い影響があった”ということをアピールしてもらい、多くの事業者に応募したいと思わせるような雰囲気づくりをしていくことが重要だと思います。そのためにも、グランプリ受賞特典を充実させることは大事であると思います。

- 会長 今回は道の駅ソーラーネ周南に特設ブースを設けますが、徳山駅にも設置できないのでしょうか。

- 事務局 徳山駅は現在交渉しているところです。

- 会長 どういった特典があるかは非常に重要であると思いますので、その点も踏まえ、「周逸グランプリ 2026」をどのように開催するかを検討いただきたいと思います。募集テーマについては、最終的に市で決定いただくようになりますが、個別にご意見を伺うござりましたら、皆さんにはご協力をいただければと思います。

6. 今後の予定

- 会長 最後に、今後の予定について、事務局から説明をお願いします。
●事務局 事務局説明
■会長 説明のありました内容について、ご意見、ご質問はございますか。なければ、本日の議事を終了いたします。進行を事務局にお返しします。

7. 閉会

- 事務局 次回は、3月頃に第2回協議会を開催する予定です。現在のメンバーで開催する最後の協議会となりますので、ぜひご出席をいただけますと幸いです。後日、改めてご案内をさせていただきますので、よろしくお願いします。それでは最後に、農業振興課長よりご挨拶申し上げます。
●事務局 (農業振興課長あいさつ)
●事務局 以上で、令和7年度第1回周南市地産地消推進協議会を終了いたします。